

## 第5回重点分野推進戦略専門調査会における主な意見(案)

平成13年7月3日

### 1. 科学技術の戦略的重点化に関すること

#### ライフサイエンス分野

生物遺伝資源の整備を研究基盤の整備の一環として入れるべき。

おいしく丈夫な動物、植物の育種・生産技術の開発が、特に高齢化社会では緊急の課題。

全体として重点事項の絞込みを図っている。

品種改良、穀物増産等の研究開発は、平成14年度の予算編成に反映させるべき問題ではない。

遺伝子組み換え技術の安全性を確保する体制を整備すべき。

医療技術、遺伝子組み換え体の安全性の確保において対応している。

脳研究を取り入れるべき。

重要な課題であり、何らかの形で挙げておく。

#### 情報通信

超高速モバイルインターネットシステムは絞りすぎで、「超高速モバイルシステム並びに高度インターネット技術」が適切。

計算科学は、これを支えるハードウェア、ソフトウェア等の技術に関することに表現整理すべき。

整理の仕方を考えたい。

## 環境

新規化学物質のリスク管理を取り上げるべき。

既に環境ホルモンを中心としてかなりの研究費がついており、それ以外のところに重点を置くこととなった。化学物質については、検討したい。

化学物質のリスク管理に関する研究開発は、環境分野の観測・分析と物質生産・管理の2軸による分類になじまず、また、既に国際的な研究協力が進んでいるので、取り上げていない。

水資源に関する研究開発を取り入れるべき

地球温暖化の中に含まれないか検討。

## エネルギー分野

対象とすべき項目がほとんど網羅的に並べられているのは問題ではないか。

今後、厳正な評価の結果を踏まえて重点化を図る。

原子力の安全というだけで、従来の延長線上の研究開発の実施には疑問。

原子力関係は、エネルギー源の多様化技術等の研究開発に転換すべき。

原子力問題について、合同委員会等により総合科学技術会議と原子力委員会の考えをすりあわせるべき。

最終的な成案に反映できるようなタイミングで機会を得るよう努力したい。

## フロンティア分野

日本の宇宙開発の取り組みについて、総合科学技術会議が考えるテーマではないか。

高度な判断が必要ではないか。

- 2 . 整理、合理化、削減を図る事項上での検討の視点に関すること  
この視点に立った見直しを平成14年度において、是非実施すべき。

視点の中で用いている「投資」の意味を誤解されないよう十分に説明すべき。

視点の1つである「妥当性」は、方法の妥当性であり、表現として意味を絞り込みすぎている。

一般にわかりやすい、間違いのない良い言葉を考えたい。

総合科学技術会議は、科学技術会議に比して権限等が広まっており、それに見合ったテーマ作りが必要。(継続的に行ってきたものでも不必要なものは廃止する。等)

- 3 . 国民への説明に関すること  
新たな発展の源泉となる知識の創出を始めとし、国民への分かりやすい説明は非常に重要。